

ぎかいの話題

新年度予算、多種多様な議論・要望

予算特別委員会のあらまし

議員全員で構成する予算特別委員会（森遵委員長、森田義孝副委員長）を設置し、新年度の各会計予算と条例議案等について、3月16日から24日までの実質6日間で慎重に審査を行いました。

保健センターの整備に関すること、学童保育所・クラブの充実、健康づくり、防災対策、ごみ処理問題、新型コロナウイルス感染症の対応など多種多様な面から活発な議論が交わされました。

審査の結果、全ての予算議案及び条例議案を可決すべきものと決定しました。起草委員会で合意形成を図る要望項目などが話し合われて委員長報告書にまとめられ、3月27日の本会議で報告されました。

全会派及び無所属委員全員による賛同により、議会の合意形成が図られた意見・要望

保健センターの整備については、母子保健から子育て世代包括支援センターを含めた子育て支援や相談機能を一体的に推進するため、総合窓口の設置に向け、鋭意取り組まれない。

本市では平成30年4月に子育て世代包括支援センター「はぐはぐOomuta」が子ども家庭課内に開設され、妊娠期から出産、子育て期を包括的に支援し好評ですが、相談のスペースが狭いなどの課題があります。

また、母子健康手帳の交付、歯科検診やことばとこころの相談等はこれまで保健所で行われていました。

学齢期から18歳までの相談については、児童家庭相談室が別室にあるため、わかりにくいという声もあります。

保健所機能が県に移管され、新しく保健センターが整備されるこの機に、子ども支援の総合窓口を設置するよう、議会の総意として、その実現に向けて鋭意取り組まれるよう上記を市当局に要望しました。

その他の主な意見・要望(抜粋)

●学童保育所・クラブ

国の設置基準を守り、改修等も適宜実施してほしい。

潜在化した待機児童の実態をつかみ、保育の充実を図ることや、夏休み期間中のみの設置も検討してほしい。

●ごみ収集

プラスチック製容器・包装のリサイクルは、丁寧な市民への周知・啓発に努めてほしい。

福祉収集は、より充実を図ってほしい。ごみ処理の新施設整備は、県にも負担を求めながら取り組んでほしい。

●新型コロナウイルス感染症対策

病院等施設のマスクや消毒液の不足実態を把握し、その改善を国や県に要請してほしい。また、感染者が出た場合の関係機関の連携も十分に取組んでほしい。

●健康づくり

「おおむた+Walking」アプリ等の活用で市民意識の向上を図ってほしい。

フレイル予防事業は、よかば〜い体操教室等との連携も図りながら市民への周知啓発に努めてほしい。

●防災

避難所への段ボールベッド等の備蓄品の充実、福祉避難所の費用負担への配慮に努めてほしい。発災から3日程度の安全確保を各自行えるよう市民への啓発に努めてほしい。

●教職員の働き方改革

教職員定数の改善を国に求め、各学校現場では、業務量の削減や勤務時間内に研究会や会議を行う等の改善を図ってほしい。

●空き店舗の解消

今後、老朽化による改修の負担増など課題もふえるため、タウンマネージャーや商工会議所と連携して進めてほしい。